

經典の偽作と編輯 — 『遺教三昧經』と『舍利弗問經』

船山徹
(京都大學)

最初に、漢語で記された佛教經典（スートラ）を三種に分類する假説を示す。

1. 翻譯經典（漢譯）：インド語の原典から翻譯された經典
2. 疑經（中國撰述經典）：インドにはない中國固有の要素を含む、中國で作成された經典
3. 編輯經典：インド起源の諸構成要素を用いて中國で編輯された經典

このうち2の疑經と3の編輯經典の共通點と相違點を具體的に考察するために、『遺教三昧經』と『舍利弗問經』を取り上げる。前者は疑經であり、全文は残念ながら現存しないが佚文は回収可能である。一方、後者は、インドの摩訶僧祇部（大衆部）の説を伝える純然たる翻譯經典であると従來考えられてきた。

本發表では、『遺教三昧經』が疑經であること、『舍利弗問經』は純粹な翻譯ではなく、恐らくは法顯の歸國直後の頃に、中國で何らかの編輯が加えられて成立した經典であること、ただし後者は一部に中國固有の構成要素を有する點において、インド佛教の資料として使用する際は若干注意が必要なことを指摘する。

兩經典によれば、インドには五部派が存在し、それぞれが僧衣の色を異にしたという（五部僧衣別色説）。インドの部派を五部派とすることにも問題はあるが、とりわけ奇妙なのは部派ごとに衣の色が異なっていたとされる點である。これをインドで成立した説と解釋するのは困難であり、中國で成立した説と解釋すると色々な點がうまく説明できる。一方、同説が『舍利弗問經』にも確認されることは、同經の少なくともこの部分は中國佛教固有の要素であることを示唆する。

船山徹 FUNAYAMA Tōru

1961年生

京都大學人文科學研究所助教授

主要著作 「漢譯」と「中國撰述」の間 — 漢文佛典に特有な形態をめぐって」 「捨身の思想 — 六朝佛教史の一断面」 「六朝時代における菩薩戒の受容過程 — 劉宋・南齊期を中心に」 “Kamalaśīla’s Interpretation of ‘Non-erroneous’ in the Definition of Direct Perception and Related Problems” “On the Date of Vinitadeva” ほか多数